

工藤教孝 (Noritaka Kudoh)

Ph.D. (State University of New York at Buffalo)

専門：マクロ経済学（理論・数量分析）



研究室の概要

- 工藤研究室は研究者や専門家を目指す熱意ある大学院生を歓迎します。数理的・数量的な分析に明け暮れる毎日と一緒に楽しみましょう。
 - 他学部出身者も歓迎します。
- 工藤研究室では、取引機会に制限のある摩擦的市場を分析可能な「サーチ理論」を中心に据えながら、マクロレベルで労働市場や財市場を分析しています。
 - 数理モデルの構築・分析ならびにシミュレーションを通じてデータの特徴を解明するという研究スタイルを採用しています。
- 博士前期課程（現在8名）：分析技術獲得ならびに先行研究の結果を再現・追試する活動に力を注いでいます。
- 博士後期課程（現在6名）：修士論文で行った研究を発展させ、国際学術誌掲載を目指して研究指導を行っています。
- 研究室HP:
 - <https://sites.google.com/site/noritakakudoh/>

主要業績

- "Robots, AI, and Unemployment" (with Hiroaki Miyamoto) *Journal of Economic Dynamics and Control*, 174 (2025) 105069.
 - 資本がその生産性を大きく向上させたとき、どのような条件下で雇用が失われるのか、数理的・数量的に明らかにしました。
- "Prominence and Market Power: Asymmetric Oligopoly with Sequential Consumer Search" (with Makoto Hanazono) *International Economic Review*, 65 (2024) 1103-1587.
 - 摩擦的な市場において、店舗数の意味でより大きな企業がより強い価格支配力を持つことを数理モデルを通じて発見しました。
- "Do General Equilibrium Effects Matter for Labor Market Dynamics?" (with Hiroaki Miyamoto) *Economic Modelling*, 119 (2023) 106108.
 - 所得増加が労働意欲を引き下げる「所得効果」を景気変動上でとらえる数理モデルを開発し、シミュレーションを通じて、それが景気変動を縮小させることを発見しました。